

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲

2018

2月

No.45

 兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより



[院内専門センターのご案内]

糖尿病・内分泌センター

「内分泌代謝疾患の地域における
中核施設としての糖尿病・内分泌センター」

兵庫県立尼崎総合医療センター

[AGMC委員会・部会めぐり] 嚥下検討委員会

- [AGMCニュース] リハビリテーション部
ロボットスーツHAL® (Hybrid Assistive Limb®) 医療用下肢タイプの導入
- セミナーのご案内
- スタッフのつづやき
- ぶらり〜っと病院探訪

糖尿病・内分泌センター



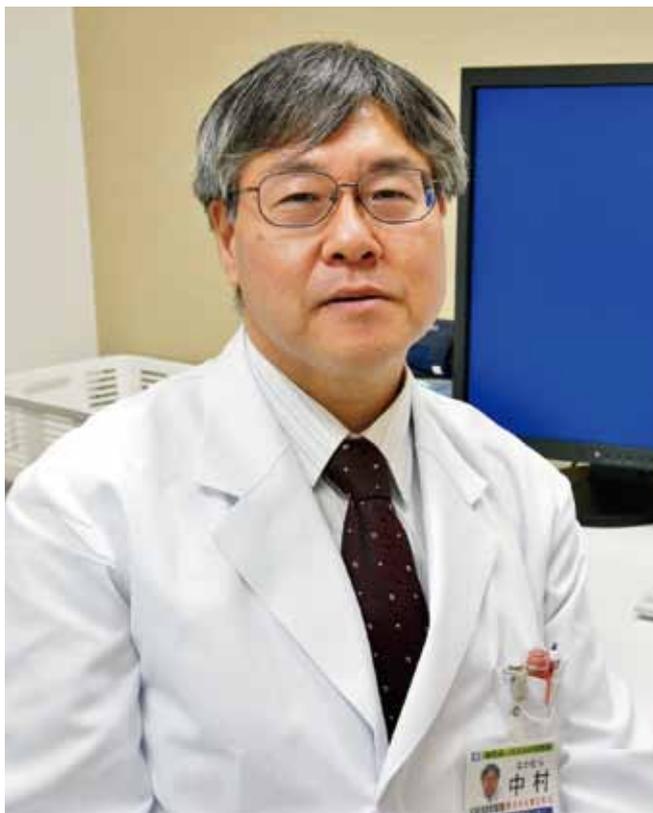
内分泌代謝疾患の 地域における中核施設 としての糖尿病・内分泌センター

院内専門 センターの ご案内

複数の診療科・部門を一つに
まとめ、診療機能を統合させた
当院の〈センター〉を
ご紹介します。

糖尿病・内分泌センターの特徴

当センターは、糖尿病と共に各種内分泌疾患の診療にも力を入れており、内分泌代謝疾患に対する専門的医療を提供すべく活動しております。糖尿病に関しては、生活指導外来、透析予防指導外来やフットケア外来を設置し、血糖コントロールだけでなく糖尿病合併症予防をチーム医療として行っています。内分泌疾患に関しては、外来では血液検査と画像診断を、入院では内分泌負荷検査を中心に行い診断・治療方針の決定を慎重に行っています。



糖尿病・内分泌
センター長

中村 嘉夫

- 京都大学医学博士
- 京都大学糖尿病・内分泌・栄養内科 臨床教授・非常勤講師
- 日本糖尿病学会 専門医・指導医・学術評議員
- 日本内分泌学会 専門医・指導医・評議員
- 日本内科学会認定医・指導医



生活習慣病センター長
糖尿病・内分泌内科部長
栄養管理部長

北野 則和

- 京都大学医学博士
- 京都大学糖尿病・内分泌・栄養内科 臨床教授
- 日本糖尿病学会 専門医・指導医・学術評議員
- 日本内分泌学会 評議員
- 日本内科学会認定医・指導医



後列左から:大谷翔一医師、北村看護師、吉積管理栄養士、大谷大輔医師、栗山医師
 中列左から:香月看護師、沼医師、柳田栄養士、村上栄養士、内山医師
 前列左から:中村医師、北野医師

組織構成

糖尿病・内分泌内科、看護部、管理栄養部、検査部

診療体制と診療内容

● 糖尿病

糖尿病・内分泌内科、看護部、栄養管理部が協力して各種指導外来を運営し、また検査部の協力も得て糖尿病教育入院を行い、個々の患者様の病態にあった最適な治療を選択しています。またインスリンポンプ治療や持続血糖モニタリング装置を用いることにより、1型糖尿病においても綿密な血糖コントロールが可能となっています。

● 甲状腺疾患に対するアイソトープ治療

甲状腺癌には特別治療室で、またパセドウ病に対しては一般病室でアイソトープ治療を行っています。

● 原発性アルドステロン症

外来検査→5日間入院による各種内分泌負荷検査→副腎静脈血サンプリングの順に精査を行い、慎重に治療方針を決定しています。



■ 平成29年 糖尿病・内分泌センター入院患者数内訳

| | |
|--------|-----|
| 糖尿病 | 391 |
| 甲状腺疾患 | 28 |
| 副腎疾患 | 77 |
| 下垂体疾患 | 18 |
| 副甲状腺疾患 | 9 |
| その他 | 2 |
| 計 | 525 |

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

糖尿病の血糖コントロール・合併症管理や各種内分泌疾患の診断・治療が必要な患者様は、お気軽に当センターを利用頂けましたら幸いです。





適切な運営および安全な医療提供を行うために、
多職種で運営されている院内委員会・部会です。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長

西村 一成

《嚥下検討委員会の紹介・特徴》

- 嚥下障害は、加齢、脳血管障害、神経筋疾患、頭頸部がんなどの侵襲度の高い手術の後など様々な原因でおこります。
- 耳鼻科医と言語聴覚士が、誤嚥の疑われる入院患者さんに嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を行い、嚥下障害の有無やその程度を評価しています。
- 嚥下障害がある患者さんには、嚥下訓練を行って経口摂取の回復に努めています。

《構成メンバー》

- 医師5名
(耳鼻咽喉科、神経内科、呼吸器内科、ER総合内科)
 - 歯科医師1名 ● 看護師4名 ● 言語聴覚士5名
 - 薬剤師1名 ● 管理栄養士1名
- ※以上にくわえて各病棟に1名嚥下担当の看護師を配置

嚥下検討委員会

食べたり飲んだりすることの 障害である「嚥下障害」に 多職種チームで評価・治療



嚥下検討委員会メンバー

活動内容・取り組み

嚥下評価や嚥下訓練の院内における実施手順の作成や運用手順の企画、また職員への啓発活動をおこなっています。
週1回、医師と言語聴覚士がカンファレンスを開いて、嚥下している動画をみながらリハビリの進捗状況を評価しています。



カンファレンス風景

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

入院を契機に嚥下機能が落ちるケースが多くみられます。そういった方々の嚥下機能低下を最小限に食い止め、退院後の生活へなめらかにつなげる手助けができればと考えております。



言語聴覚士

リハビリテーション部 ロボットスーツHAL[®] (Hybrid Assistive Limb[®]) 医療用下肢タイプの導入

リハビリテーション部 ロボットスーツ責任者
作業療法士 正垣 明

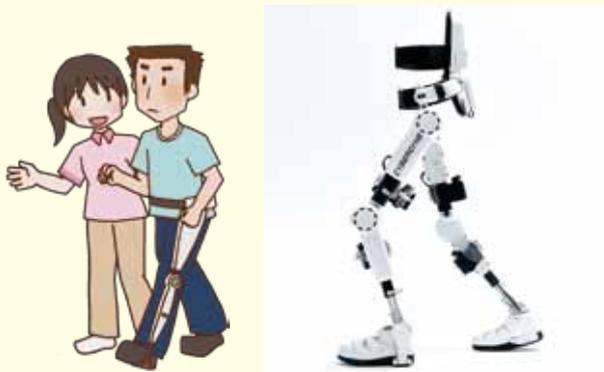
県立尼崎総合医療センターリハビリテーション部では
2017年7月から世界初のサイボーグ型ロボット治療機器である
HAL[®]医療用下肢タイプを導入しました。

【ロボットスーツHAL[®]医療用下肢タイプとは？】

HAL[®]は神経や筋肉の難病疾患患者さんに対し、治療の有効性が確認された新しい医療機器です。HAL[®]は、医療保険が適用される医療機器として薬事承認されています。

【HAL[®]が動く原理は？】

人は身体を動かすとき「歩きたい」と考えることで、脳から筋肉に微弱な神経信号を送ります。HAL[®]はその信号を検出し、「意思」を読み取りアシストします。これにより脳は“歩く”ために必要な信号の出し方を少しずつ学習することができます。動きに対する正解を脳に教えることのできる唯一のロボット、それがHAL[®]です。



(サイバーデザイン社ホームページより抜粋)



AGMC
ニュース

HAL[®]医療用
下肢タイプの
装着風景

【ロボットスーツHAL[®]医療用下肢タイプの適応患者は？】

以下の緩徐進行性の神経・筋難病の診断を受けた方を対象としています。

- 脊髄性筋萎縮症(SMA) ●球脊髄性筋萎縮症(SBMA)
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)
- シャルコー・マリー・トゥース病(CMT) ●遠位型ミオパチー
- 封入体筋炎(IBM) ●先天性ミオパチー ●筋ジストロフィー

なお、現時点では、脳卒中や整形外科疾患の治療には対応していません。

【HAL[®]を通じた地域連携】

当センターはHAL[®]を導入している近隣の回復期病院と情報を共有しています。HAL[®]の連携病院へ転院後もスムーズなHAL[®]治療を行うことが可能です。

【リハビリからのお願い】

HAL[®]医療用下肢タイプの治療は、医療保険における適応疾患(上の枠内)の患者さんに限り入院・外来共に受付をしています。HAL[®]医療用下肢タイプの治療効果、内容・方法には個人差があることをご了承ください。しかし、適応疾患以外であっても運動機能の改善が期待されている患者さんに関しては、主治医と相談しながら実施する事もあり、今後更に多くの疾患に対しても適応を広げていきたいと考えています。

セミナーのご案内



第15回生活習慣病セミナー

多くの方
ご参加を!

テーマ 『ここが違う! 高齢者糖尿病の特徴』

【講師】 県立尼崎総合医療センター

●糖尿病・内分泌内科医師 北野 則和 ●栄養管理士 並川 あい

【日時】 平成30年3月14日(水曜日) 午後2時~4時

【場所】 県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 参加費:無料(予約不要)

★お問い合わせ: 外来Bブロック(糖尿病・内分泌内科) 看護師 ☎ 06-6480-7000(代表)

スタッフのつばき



医学生や若手医師が、快適に研修・教育を受けられるように支援しています！



臨床研修センター 秘書 田端 友美／青野 涼子

こんにちは！

私たちは、医学生対象の見学説明会の運営や、医師がスムーズに研修を行えるようお手伝いをしています。尼崎総合医療センターは、医師の養成や大学からの実習生の受け入れと教育を担うマグネットホスピタルの機能を持ち、患者さんからも、医師・医学生からも選ばれる病院を目指してきました。

その結果、昨年は、166名の医学実習生と432名の見学生を受け入れ、また、医学部6年生からの応募者数ランキングが全国で10位（なんと西日本で1位）に支持される医学生に人気の病院となりました！この4月にフレッシュな研修医が25名入職します。また、毎年3月には、2年間の臨床研修を終えた研修医の修了式が行われ、より貢献した研修医を医師・看護部・薬剤部・検査部など職員からの投票で決めるジュニアレジデントオブザイヤーの発表もあります。今回はどの先生が選ばれるのか楽しみです！（^u^）

ぶらり〜っと 病院探訪



快適な空間で、最新の化学療法を提供

外来化学療法室

がん患者さんの心強い味方



当 センターでは、2階の外来フロアに化学療法室を設け、がん患者さんに対して最新の化学療法を提供しています。今回は、そんな外来化学療法室を訪れました。

化学療法室の中は、若葉色の電動リクライニングチェアが23台、ベッドが7台配置されており、広々とした明るい空間となっていました。また、患者さんにリラックスして快適に治療を受けていただくようテレビを設置するなど、アメニティにも配慮されていました。治療に来られる患者さんは、1日当たり約32人、1年間で約8,000人だそうです。

現在、医師や看護師、薬剤師などの専門スタッフが10数名常駐されており、皆さんに安心して安全な治療を行っていただけるようにサポートをされているとのことでした。

スタッフにお話をお伺いすると「化学療法には、吐き気や気分不良などの副作用を伴うこともあり、治療を受けながら安全に安心して日常生活を送っていただくためにも、身体や薬の副作用について患者さんご自身でご理解いただくことも重要になってきます。治療に関して疑問や質問がございましたら、お気軽にスタッフまでご相談ください。」と述べられていました。

編集後記

あまが咲だよりも創刊から45号となりました。毎月、病院探訪を掲載させていただいていますが、これは職員が病院の各所を訪れ、そこで、どのような人が働いていて、どのようなことをしているのか紹介するコーナーです。職員でも知らないところが多くあり、新しい発見となっています。尼崎総合医療センターが多くの方の支えられていることを実感しています。感謝。

(F.S.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索